

令和8年3月7日(土)

## 宇佐・高田支部総会および四極会100周年祝賀会開催

令和8年3月7日、宇佐市法鏡寺の割烹「寿」で支部総会および四極会発足100周年祝賀会が行われ、総勢19名が参加した。宇佐・高田支部には約150名の登録会員がいる。

今総会は、コロナ禍の影響を含め、7年振りの開催となったことから、以前よりも多くの会員が出席。新卒1年目の船瀬美希会員をはじめ、3名の女性が出席。石田恭子会員は艶やかな和服姿で参加し、総会が始まる前から和やかな雰囲気醸し出した。

田邊靖史事務局長の司会で議事が進行。廣崎雅澄支部長から支部現況と会計報告が行われ、続いて三浦洋一四極会会長が挨拶に立った。2025年度は四極会発足100周年にあたり、この100年の間に四極会から経済界や政界に多くの著名人を輩出した。昨年7月全国評議員支部長会議に併せてレンブラントホテル大分で大分支部・別府支部が中心となり、佐藤樹一郎大分県知事や北野正剛大分大学学長をお招きし、四極会発足100周年記念祝賀会を開催した。約400名の会員が一堂に集い、現役学生のスイングブラザーズによる生演奏やよさこいチーム獲天によるダンスパフォーマンスが行われ、会場は大いに盛り上がったこと。大分支部・別府支部以外の支部では、支部総会兼懇親会を四極会発足100周年祝賀会とし、各支部で工夫を凝らした演出で、会員の増強を図っていると熱く語った。

そして小野田勝会員による乾杯の発声で、祝賀会に突入した。

久しぶりの懇親会で会は大いに和み、会話がはずむ。駅館川名物の「蟹汁(がんじる)」に舌鼓を打つ中で3分間スピーチが始まる。まず大島英明事務局長が、学卒教員で大分大学の渡邊博子副学長兼理事が経済学部の現状や学生の就職等の講和を行った。各テーブル毎に懇談、駅館川名物の「蟹汁(がんじる)」を食したのち、全員で3分間スピーチ。最近、新会社をスタートアップした若手会員からは、商売に繋がる情報提供の依頼など積極的な話題も飛び出し、「任せろ、商談成立!!」などの掛け声も発せられ、大いに盛り上がった。

最後に、全員で記念写真に納まり、校歌・寮歌・逍遥歌を輪になって合唱のあと、今回は倍増の参加者を目指し、相良和憲会員の一本締めで散会した。

廣崎 雅澄(大29):記

